

昭和60年11月11日

社団法人 情報処理学会
調査研究運営委員長 殿

データベース・システム研究会
主査 上林弥彦



データベース・システム研究会継続について(お願い)

下記のとおり研究会の活動を継続致したく、よろしくお取計り下さいますようお願い致します。

記

1. 希望研究会名

データベース・システム研究会

2. 継続の趣旨

データベースはソフトウェアの基本技術として、OSや言語プロセッサと並んで重要であるだけでなく、最近の計算機応用分野においてもその比重がますます大きくなりつつある。また、データベースの研究課題の中心も、従来のビジネスデータ中心のものからマルチメディア的なものに変化しつつあり、CADを始めとする新しい応用分野に適したデータベースの研究開発は現在非常に盛んに行われつつある。新しい世代の計算機応用として注目されている知識ベースもデータベース技術を基礎にしている。このような意味で、データベースの研究開発の重要度は今後ますます増大すると考えられる。国際的に見た場合、多くの分野と同様に研究の中心は北米とヨーロッパであるが、最近では日本の研究も認められるものが増え、85年には Foundations of Data Organization 国際会議を、86年には Very Large Data Base 国際会議を日本で開く。このように、国際的に競争の激しい分野では、日本の研究者間の交流や国際活動は非常に重要といえる。このため、米国 ACM の SIGMOD (データベース) 委員会に対応する情報処理学会の組織とし

てのデータベース研究会をさらに継続する必要があると考えられる。本研究会は、ACMのSIGMOD, SIGBD(ビジネスデータ処理), SIGOA(オフィスオートメーション)の分野をカバーすると思われ、日本における研究活動の活発化、この分野の国際交流のための組織としてぜひとも必要である。

以上のような理由で、情報処理学会データベース・システム研究会の継続をお願い致したく存じますのでどうかよろしくお願い致します。

3. 研究分野

最近のデータベース応用分野の広がりにより、従来応用(OA, CADなど)と書いていた部分をトランザクション処理システム、オフィスオートメーション、CADデータベース、データベースの高度利用に分けた。

基礎理論、モデル、設計、言語、質問処理、並行処理、分散DB、トランザクション処理システム、DBマシン、アーキテクチャ、マルチメディアDB、知能DB、オフィスオートメーション、CADデータベース、データベースの高度利用

4. その他

なし

以上